



人権平和資料館だより

2017年（平成29年）6月

HUMAN RIGHTS & PEACE 第247号

人権と平和は
21世紀のキーワード

〒720-0061 福山市丸之内1-1-1
TEL 924-6789 FAX 924-6850

jinken-heiwa-shiryokan@city.fukuyama.hiroshima.jp

「オキナワと戦争」 …沖縄の歴史と文化…

■期間 6月7日(水)～7月17日(月)

明治政府は、琉球王府に対して、武力を背景にした「琉球処分」を断行した。そこで沖縄県は、公民化政策によって急速に日本化を進めた。一方、近代化を急ぐ日本は、富国強兵をかけた、軍備を拡張し、近隣諸国への侵出を企てた。満州事変、日中戦争、アジア・太平洋戦争へと拡大し、沖縄は、15年戦争の最後の決戦場となった。

沖縄戦において、日米両軍は、総力をあげて死闘をくり広げた。米軍は物量作戦によって、沖縄本島中南部に無差別な空襲や艦砲射撃を加え、おびただしい砲弾を打ち込んだ。この「鉄の暴風」は、およそ3か月に及び、沖縄の風景を一変させ、軍人・民間人20数万人の死者を出す凄まじさであった。

沖縄（琉球）の思いを伝える「琉球司楽向生碑」（福山市鞆町 *小松寺）

1790年、第13回使節に楽師として加わった向道亨は、琉球を7月12日に出帆し、9月6日に薩摩の川内久見崎を出て1カ月余り後の10月13日、備後鞆沖で若干22歳の若さで病死した。翌日、鞆の小松寺に葬られたが、福山藩主安部正倫は、鞆奉行らに命じて墓と追悼碑「琉球司楽向生碑」を建てさせた。



扁額「容顔如見」（福山市鞆町 小松寺）

1790年、第14回使節に、向道亨の祖父：向朝紀と父：向朝郁は、孫・子の霊をとむらう祭文を託した。祭文には、祖父朝紀は「嗚呼哀哉」と書き、父：朝郁は「嗚呼痛哉」とある。小松寺の本堂には、この祭文とともに奉納された扁額「容顔如見」が掲げられている。

祖父の祭文に「而して今容貌顔色その身傍らに在るを見るが如し」とある。



* 福山市鞆町「小松寺」…沼隈神社一参道入り口の西側に位置している。

* 「慶賀使・謝恩使」…将軍の代替りを祝う慶賀使と、琉球王国が即位した場合は、謝恩使を江戸幕府へ派遣した。琉球の使節一行が上京する時は、中国風の行列に仕立て、路次楽を吹奏しつつ行進した。これが「江戸上り」で、1634年から1850年までの200年余りの間に18回派遣された。

企画展関連行事のお知らせ

講演会 「オキナワと私」
講師 城間 和行さん（広島沖縄県人会々員）
日時 2017年（平成29年）7月2日（日）
13時30分～
場所 福山市人権平和資料館 2階研修室
入館料 無料



沖縄の歴史と文化

かつて琉球の先人は
平和をこよなく愛する民として
海を渡り
アジア諸国と交易を結んだ
海は
豊かな生命の源として
平和と友好の架け橋として
いまなお
人々の心に息づいている



首里城正殿（大修理前・明治期）

1429年、尚巴志は琉球を統一し那覇が一望できる首里の丘陵に築城した。1933年大修理が行われ国宝に指定されたが、戦争により焼失。現在の首里城は1992年に復元された。



現在の首里城正殿（1992年復元）

首里城を中心に、守礼門・歓会門・円覚寺の一带は、国立公園として整備されている。



「平和の礎」

世界の恒久平和を願って、国籍・軍人・非軍事を問わず沖縄戦で亡くなられたすべての戦没者の名前を刻んだ「平和の礎」が、沖縄戦終結50周年を記念して建設されました。沖縄の歴史と風土のなかで培われた「平和の心」を、現在も世界の人に発信し続けています。



農地を飛行場に

沖縄本島に上陸した米軍は、嘉手納飛行場をはじめ、読谷飛行場、本部飛行場などを整備拡充した。住民のいなくなった町や村をブルドーザーで敷きならし、基地をつくり上げていった。